

平成20年度 第2回 安曇野市環境審議会 会議概要

- 【日 時】 平成20年11月21日（金） 午前10時～12時
【場 所】 穂高総合支所 第3会議室
【出席者】 委員14名 環境課職員3名 農政課職員3名
三郷総合支所地域支援課1名 同産業建設課2名 傍聴者3名

【議 事】

三郷地域の畜産臭気公害について

(会 長) 三郷地区の委員から要望書が提出された。その趣旨は、畜産臭気について過去に三郷村の環境審議会に村長から諮問があり、審議会から答申があったが、合併後、そこで確約されていたことが実行されていない、最近臭気が増えてきて審議会に調査、審議をしてほしいということかと思う。

(委 員) 安曇野市の環境審議会の中で3人が三郷村環境審議会のメンバーだった。実情を聞いていただき、改善を図りたい。

平成17年3月に三郷村環境審議会から答申がされ、畜産農家との共存共栄を目指してきた。清掃の徹底について1年で定着できるとは思わないが、17年度の活動はまあまあよかったと思う。その後の継続に問題があったのではないかと。特に今年は相当悪臭に悩まされた。尿の散布に悩まされたり、ふん尿の野積みがあって、未だ解決されていない。個人的なクレームだけでは解決に至らない。

(委 員) 5月～8月の無風の日の午後～夕方にかけて、農免道路周辺が臭う。黒沢川沿いの南北2kmくらいが臭うが、ときに東側は大糸線あたりまで臭う。臭いはしばらくすると麻痺してしまう。気流にもよる、どこに発生するか感知しにくい。この夏は特にひどかった。畜産業との共存共栄ということで、ある程度は耐えている。市になってから、監視システムがいつの間にか機能しなくなり、後退してしまった。

苦情は支所で受け付け、環境課は総合的な考え方を示し、畜産農家の対応は農政課が行っているが、動きが鈍くなってきているのではないかと。住民の苦しみ伝わっていないのではないかと。堆肥センターの機械のトラブルもあり、野積みの悪臭などがあって、検討してもらったことになった。対応にあまり費用をかけないような簡便な仕組みを作ってきた。共存共栄の中でどのようにしていったらいいか。

(委 員) 市民の代表のつもりで、市民から見てどうなのかという立場で考えている。

〔百瀬委員より、資料ならびパソコン(パワーポイント)等で詳細説明〕

①畜産施設の立地環境 ②畜産臭気の苦情 ③悪臭源 ④行政の対応 ⑤住民の声
について、具体的な調査結果報告がなされた。

(委 員) 何とかしなければならないが、どうやって対策を立てればいいのか。

(委 員) 風の動きについての説明があったが、風のない日の方が臭うというのはなぜか。川沿いに夜は風の動きが逆になることが多いが、夜はあまり臭わないのか。

(委 員) 野沢地区「巾下」の人たちは、夜に窓を開けると臭うし、家の中に溜まり、眠れないと言っている。

(委 員) 風についてのデータの蓄積や分析はないが、三郷の風はだいたい同じように吹いているというデータは、三郷村誌にある。

- (委員) 風のあるときは、拡散されて上に上がるが、風のない日の方が、下をはってくるので臭う。
- (委員) 風の流れのデータを見つけて対応を考えなければならないと思う。
- (委員) 問題は臭いだけなのか。肉体的にどうこうということはないのか。硫化水素など有害な物はないのか。
- (環境課) 物質濃度については、過去に臭気測定をしたことがあるが、全事業所で基準値以内だった。
- (委員) 20年前から臭ったが、今年苦情が多くなったのはどうしてか。
- (委員) 豚のふん尿を撒いたことによる。
- (委員) 監視体制がゆるんだからか。
- (委員) 監視は引き続き、行っているのか。
- (環境課) 巡回指導は行っている。
- (委員) 近所に乳牛を飼っているところがあり、個人で堆肥舎をつくったが、それほど臭わない。
- (委員) ふん尿を撒いたり、野積みをするときに行政に連絡はないのか。
- (委員) 野積みは禁止されている。堆肥を撒くことは禁止されていない。堆肥センターで処理できるのは牛糞だけで、豚糞は入れられない。また、水分調整したものでなければ持ち込めない。
- (委員) それぞれ畜産農家は工夫してはいる。研究してはいるが、費用の問題などもあり、統一する訳にはいかない。
- (委員) 下水道へは入れられないのか。
- (環境課) 検討したが、下水道区域外ということで、工事が畜産農家負担となるが、配管がかなりの距離になったり、ポンプアップが必要な箇所があったりし、工事費が高額になりすぎる。また、終末処理場の処理能力の問題もある。
- (委員) 「三郷村公害の防止に関する条例」は引き継がれていないのか。業務はどのような形で引き継がれているのか。
- (環境課) 安曇野市の条例で規制基準は、ほぼ同様の形になっている。
- (農政課) 臭気問題については合併以降、畜産振興の立場で対応してきた。畜産農業は現在の経済情勢からみて非常に厳しい状況にあるが、臭気問題は畜産農家のモラルの問題である。野積みの問題は処分を受ける寸前まで行っている。堆肥センターの問題もある。支援も市民から見て厳しい部分もある。団体の一本化についても、難しいところがある。
- (委員) 堆肥センターはどういう意図で造られたか。堆肥センターに期待するところは何か、どんな問題があるのか。
- (農政課) 家畜排泄物の適正処理を目的として、野積み解消のために造られた。専門委員会の意見を元に市内においてもプロジェクトで検討し、改善すべきところは改善していきたい。今後の市の関与については、検討を待ちたいが、設置目的が野積みをなくすこと、畜産農業の振興であり、直ちに市の関与をなくすことはできないが、どんな経営をしていくのか見極める中で決定していくことになると思われる。
- (委員) 今年度市がどのくらいの予算をつけているのか。株式会社の役員の中に、今回の問題を起こしている人がいるのか。
- (農政課) 7,500万円程度の予算で、そのうち6,500万円が攪拌機の修理費用、1,000万円が指定管理料である。取締役が今回問題を起こしている人も入っている。
- (委員) 全市的に考えて真剣に取り組まなければならない。市の予算を使うなら、全市的に取り組まなければ、畜産農家の怠慢などと言っていられない。
- (委員) 堆肥センターには疑問がある。機械の専門家から見たらおかしい。腐蝕に対する考慮がほと

んどされていない。メンテナンスはどのように引き継がれたのか。技術者は誰なのか。運転が止まったために野積みが出た。そういうことのないように知恵を出していかないといけない。

(会長) この問題は議会報告書にも出ている。市民にはなぜ畜産農家だけにあんなにお金が出ているのかという声もあると聞く。一般のゴミも処理するものとして造られていれば共存共栄もできるのではないか。

(委員) 生ゴミ堆肥はやってはいけないことになった。時間をかけて検討してきたものがゼロになった。今頃目的外の使用はだめと言われても困る。

(委員) 現在の公害の問題を何とかしなければならない。

それにはまず現状把握をしなければならない。

三郷地区でどの程度感じているか、場合によってはモニター制度などを設けて調査する必要があるのではないか。

また、畜産農家に対する交渉をねばり強くしていかなければならない。

処理施設で処理できる量を増やすとか、将来は下水化も検討していかなければならない。

三郷地区の委員などを専門委員会的にして、審議会に報告してもらい、行政に動いてもらってはどうか。

(委員) 今回はまず、現状を知ってもらいたい、全市の問題として取りあげてもらいたいということで開催した。プロジェクト化、専門委員会化しなければならないと思う。

(委員) 困っている住民の精神的苦痛をケアするためのカウンセリングも必要ではないか。ちょうどいい機会なので、全市的に悪臭問題に取り組む必要がある。

(委員) 堀金にも畜産農家が5、6軒あるが、苦情にはなっていない。やり方があるのか、手を抜いているのか。懇談会を開いたりして、自ら臭気を除く対策をとってもらわなければならない。

(委員)

畜産臭気対策は、指摘されているように対策を講じなければいけない問題だと認識している。9月3日の現地確認後、地方事務所農政課を通じて2業者へ個別に指導を行い、野積み牛糞のシート掛け等一定の前進も見られた。臭気苦情が集中した豚の尿についても、曝気をして臭気を低減したうえで散布するよう農政サイドから指導をしてもらうこととしている。

今後も、当面は個別に粘り強く指導をしていくことが必要である。

ただし、環境審議会は方針を出す場であり、具体的な対策は別途対策委員会等を作って対応することが良いのではないか。

行政と地域が一体となった対策委員会を作ることが適切と考える。

(会長) 臭気をなくすためには、畜産農家がんばってもらわなければならないが、今後、どんな資料を集めるか、どんなことを決めるか、監視をどうするか。

行政だけでなく、区の人と一緒に監視してもらうのも一つの方法だと思う。

また監視は、月1回とか、週1回とかやらなければいけないと思う。

畜産農家が責任者であり、責任を全うしてもらい、少しでも改善していくようにならない。

飯沼委員さんから話しがあったが、今後どうするか、三郷の人を中心に検討してもらい、次の段階に移りたい。